



店の目の前を水路が走る情緒ある風景が気に入っており、観光客から「写真を撮っていいですか」と声を掛けられるのがうれしいという



この地を選ぶ

第4回
【島原市】

【雑貨店「水都」店主】

桑島公さん

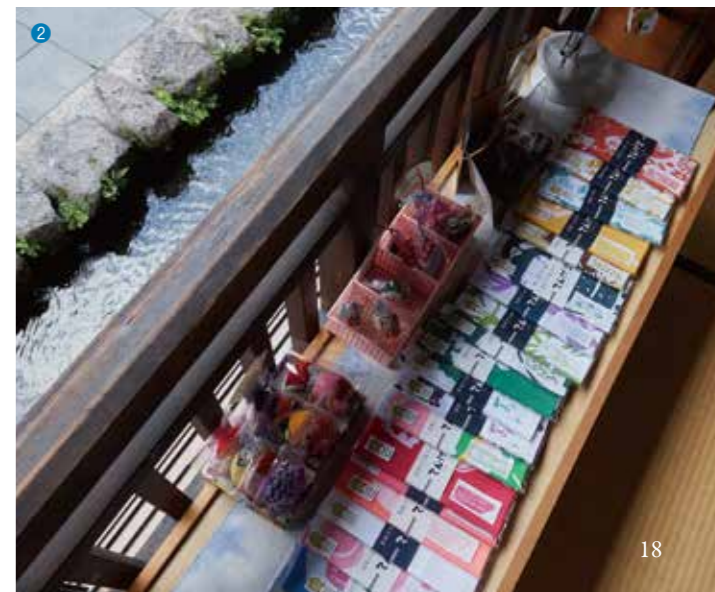
ひと目ぼれしたこの場所から

清

らかな水の流れに誘われて島原市新町をのんびり歩いていると、古い建物に目が留まる。中をのぞくと、ちりめん細工や和風小物などの雑貨が並んでいた。店の主人は宮城県出身の桑島公くわまきみよしさん。二十代後半で奥さんの実家がある島原市に家族で移住して十年以上経つ。「移住とかそんな大げさな感覚ではありませんでした。家族で東京に住んでいましたが、自分が田舎で育ったので、ゆくゆくは静かな場所で暮らしたいと思っていました。そんな時に妻の祖母が亡くなり義母が一人になったので、島原に帰ろうかと」と当時を振り返る。「水がきれいだし、どこを歩いても島原城が見え、海や山にも近く、子育てや共働きしやすい環境で、地元の方も温かい」。都会では感じられなかった人付き合いの楽しさも後押しし、地元の消防団にも入団。今やすっかり、この町に根を下ろして暮らしている。

「この建物を初めて見たとき、いい雰囲気だし、店をやったら良さそうだなと思ったんです。でもそのときは違う仕事をしていました」。それから数年後、空き家になっていたのを知り、店を構えることを決意。二年前から夫婦で雑貨店「水都」を営んでいる。実はこの建物、明治初期に建てられた古い旧家の住宅で、昨年三月には国の有形文化財に登録。店をアピールする魅力が新たに加わり、気持ちも引き締まったという。

江戸時代から続く中壠町商店街の青年部長としても活躍する桑島さん。目標は商店街に人を呼べる店にすること。「店の知名度はまだまだ。『水都』があるから島原に行ってみよう」と思ってもらえる存在にしたいと言葉は静かながら、熱い闘志を燃やす。自分たちが作り出した場所から、人と人とのつながりが広がることを夢見て、今日も笑顔でお客様をもてなす。



①店の前を流れる水路で飲み物や野菜などを冷やす、懐かしい光景に出会える ②島原ならではの絵柄がかわいらしい手ぬぐいや天然石のアクセサリーなどが並ぶ

ながさき移住ナビ

ながさき移住ナビ 検索